



善正寺だより

掲示板法話

亡き人々の厳しい現実

我が人生、方向転換の仏縁である



今年もお盆を迎える季節となりました。3・11(東日本大震災)で肉親、親族を亡くされた方々にとっては「初盆」ですが、今尚行方不明の肉親を探す家族の人たちなどは、大切な肉親との死別を容易に受け容れられない心境でしょう。辛いことだと思われまます。

しかし、我々が被災者の方々のことを遠巻きにあれこれ抱く先入観がかなりの外れな場合があることを知りました。精神科の医師で心理カウンセラーでもある香山リカさんが被災者の方々と面談した際聞かえてきたのは、悲惨な状況とは裏腹の心温められる意外な言葉であった、ということです。

「こうして生かされているだけでも有難いことです」「全国から、世界から飛んで来てくださって、遺体の捜索や瓦礫の撤去に尽くされる人々、ボランティアの若い人々にただただ感謝、感謝です」などの言葉に深い感動を覚えたというのです。被災地から戻ってきたNPOの人たちも「被災者のお年寄りなどから温かい感謝の言葉を頂いて、逆に生きる意味を教えられた」と異口同音

に感動の念を抱いているのです。

世界中の人々を驚かせ、敬服させるこの東北の人たちの姿は、同じ日本人として誇りに思うと同時に、その訳を問わずにいられません。生死無常の厳しい現実に向き合って、泣き、苦しむ中で文字通り、有る(生きている)ことが難しい(困難である)にもかかわらず、いのちを賜った(命拾いされた)不思議な厳粛さを真剣に受け止められた賜物ではないか、と思うのです。更に、生き残った自分たちが亡き人たちの無念を忘れない、と心の方向転換をされた人もいらつしやるでしょう。

先日、親戚の年回法要にお参りしました。それは36年前、孫と入浴中にお風呂の中で急死された妹の嫁ぎ先の姑さんの37回忌でした。それが、私共の報恩講が済んだ日の夜のことだったので鮮明な記憶でした。ある人が「あつとあつと間のことですね」と言うのを聞いてはつとしました。36年の過去があつとあつと間だとすれば、あと36年もあつとあつと間に過ぎます。36年後、私は一〇

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

☆門信徒会例会

7月17日(日)午後7時半

- ①「正信念仏偈・和讃」の拝読練習と作法の解説
- ②「宗祖讃仰作法・音楽法要」の練習と「和讃」の味わい方
- ③被災地(宮城県)を訪ねて;復興への現状とこの国の課題
月に一度の門信徒会・例会は現実の流れに埋没しがちな自己を振り返り、語り合う機会。ぜひ大勢ご参加下さい。

◇キッズサンガ 7月2日(土)午後4時 お友達誘って来てね
毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 鉛ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 智積西勝寺様で練習

☆7/7(土)名古屋別院音楽祭、バス9時小杉元ローソン、9時半桜「仏教讃歌メドレー」参加費千円、新指導者体制

◇7/30(土)朝8時「お磨き」行事さんよろしくお祈りします

◇予告 8/20(土)午後・夜、21(日)午後「永代経」
講師足利孝之先生(兵庫)、お経開きは20日午前10時半

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評
長男もブログに参加、2年11ヶ月で4万6千アクセス達成!平均80以上の訪問に感謝!HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

※10月15日(土)京都西本願寺親鸞聖人750回大遠忌法要
バス参拝(50名)定員になり次第締め切り。3人分席あり。費用8千円を添えてお早めにお申し込み下さい。宗祖讃仰作法音楽法要でお勤め。住職、若院が揃って僧侶として出勤。

一歳!とても持ちません。生死無常の道理は津波で亡くなった東日本の方々だけの話ではない。我もまた生死無常のいのちを今生かされている、という不思議に気づいて、はつとしたのです。うかうかできない。空しく過ぎる訳にはさせぬぞ、という如来さまの呼び声を我が事と真剣に聴かねばなりません。亡き人を偲ぶお盆は、この世の流れに埋没しがちなこの私を、お浄土に向けて価値観の方向転換をさせて頂く仏縁なのであります。



平成23年度後半善正寺主な行事予定

- ※8/20(土)午後・夜・21(日)午後「永代経」(足利孝之先生)
- ※9/18(日)午前・午後・小杉仏教会主催「追悼法要」(貴島信行先生)
- ※10/15(土)親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)
- ※12/3(土)夜お内仏報恩講

坊守スケッチ



震災後何が変わったか？



東日本大震災から早三ヶ月半、あなたにとって、大震災は、どんな影響を及ぼしたのだろうか？西日本の人々には、直接には被害はなかったものの、連日のマスコミ報道から、誰しも心を痛め、何かをせずには居られないという気持ちになったのではないだろうか？被災地でボランティアをされた方、それはできなくても募金に込められた方は大勢いる。残念なことにその募金の大半がまだ配分されていない。「被災地の瓦礫処理を急ぐのも大切だが、永田町(政治家)の瓦礫処理も早くしてもらいたい」という声すら聞こえる。今回の震災は、「当たり前のこと」が実は「有難いことだった」と気付かせてくれた。電気、ガス、水道、生きていく上で必要不可欠なものを、好きなだけ自由に使い、それが当たり前前の暮らしの証だと勘違いしていた。大地震による大津波で多くの犠牲者が発生し、さらには原発事故の処理が思うように進まず、これが大きな足かせとなつて、復旧の見通しが立たない。この夏日本中に、節電という負担を強いる。急に昔の生活に逆戻りせよといつても出来るものではない。夏の昼間のピーク時使用量が一番心配なこと。大企業では始業時を早めたり、休日をずらしたり、電灯をLEDに換たり、太陽光発電を設置して、節電の工夫を

している。我が家の節電対策は、できるだけクーラーを使わず、網戸で風通しをよくし扇風機を使う。使わない電気製品のコンセントは抜く。広島県の法友が、昨年の電気使用量と今年を比較して、どれだけ努力したかを調べるのも面白いとアドバイスしてくれた。震災後、本当に変わったのは、人々の人生観ではないか？未曾有の災害といわれるが、大切な人や、家、仕事、将来の希望まで一瞬の中に消え去った悲しみ、苦しみは筆舌に尽くし難い。七百年前の吉田兼好が、徒然草百五十五段で「季節の移ろいは順序があるが、死の瞬間は順序を待ってくれない。死は未来から向ってくるだけではない。過去からも追いかけてくる。人は誰でも自分が死ぬことは知っているが、その割にはそれほど切迫してないようだ。忘れた頃にやって来る死の瞬間、遙か遠くまで続く浅瀬が潮で満ちてしまい、消えて磯となるのと同じ」と書いている。今回の大津波が人々の命を奪った光景と、徒然草の文章がオーバーラップして見える。作家の吉村昭氏も十一年前「明治時代三陸海岸に大津波が押し寄せ、近い将来にも必ず来る」と予言していた。また東海・東南海・南海の三連動型の大震災が、八十七パーセントの確率で起こるといふ恐ろしい予測もある。

日本中の人が疑心暗鬼に陥り不安な日々を送る昨今だが、「天災は忘れたい頃にやって来る」を肝に銘じ、日頃の用心を怠りなく暮らしたいものだ。

☆寄稿

四日市市川崎孝一
☆刈り込まれ 排ガス浴びて
道の辺に 咲ける山茶花泰然自若
☆ホーケキヨと 未だ今一の囀りで
迎えて呉れし 明日香の村に
☆老舗では 織維効かせし 蓬餅
師に戴きて 連添と食ふ
☆偶に来た 工業団地方面に
出揃う茅花 東風に靡くを

四日市市 釈妙水
☆つゆ晴れま 児童(こら)の健脚
競い合う

☆カンバ有難う☆
伊藤綾子様・加藤由紀子様・島本邦子様・他匿名様よりお志・切手有難うございました。

☆ホットニュース☆
☆(新役員紹介)平成二十三年度門信徒会会長に服部雅之氏、会計に山下真知子様、婦人部長に服部やす子様選出。よろしく願います。

☆7/30(土) 本堂仏具お磨き。
☆おめでとう！西本願寺新門樓ご夫妻に5月12日、ご長男誕生。敬(たかし)

機と命名親鸞聖人750回大遠忌法要の年に、将来のご門主さまの誕生のニュース。二重の喜びに包まれる本山。

☆10/15(土)親鸞聖人750回遠忌法要バス参拝、あと3人、空席がありますので、お早めにお申し込み下さい。住職、若院が揃って僧侶として出勤。

☆善正寺のホームページ。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。特にイタリア新婚旅行記は読み応えあり。開設2年11か月で4万6千突破1日平均80アクセス！

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中！挿絵は門徒の服部雅之氏)

♪三重組コーラス♪
☆練習は智積西勝寺様で午後1時半。☆7/7(木)名古屋別院音楽祭・新指導者で。バス9時小杉元ロソン、桜9時半。千円、仏教讃歌メドレー黄色楽譜紙

キッズサンガ・杉の子合唱団
☆7月2(土)午後4時 友達を誘って来てね！夕方5時の鐘撞きは毎日。

☆ 編集子より ☆
「善正寺だより」第二百一十一号をお届けします。◇未曾有の大震災から早くも三カ月以上経過、今年も折り返し点です。◇被災地の厳しさは言うまでもありませんが、他人事ではありません。絆の大切さに気づいたのも亡き人のお陰だと思わずにいられます。◇暑い夏、節電の夏、御身大切にお過ごし下さい。

白いクナシの花が香る初夏。如何お過ごしですか？大震災から早四月目を迎えますが復旧は遅々として進みません。被災地の皆様、嘆き悲しみ、ご苦労を思うと心が沈みます。軽々しく「頑張れ」とは言えず、その痛みを共有するには自分は何ができるかと戸惑うばかりです。鶴瓶の家族に乾杯と、というNHKTV番組で鶴瓶さんと歌手のさだまさしさんが被災地のお寺を突然訪問。本堂に避難していた人々は大喜びで突如二人の「ヨロシ」が始まりました。そこでさだまささんが歌ったのが番組の主題歌「Bitter day」。超満員の人々の目から涙が溢れました。涙には悲しみの涙もありますが、じっと耐えていた時にそれを洗い流す感動の涙もあるのです。歌詞の一部を紹介いたします。幸せをありがとう温もり届きました。何よりあなたか元気でよかった。宝物をありがとう。思い出届きました。生まれてきてよかった。歌詞に込められた「あなたは独りきりでない。誰かがあなたのこと憶えてくれる」という絆の確のさが被災地の人々に生きる勇気として届いたのです。たった一個のオニキリでもいのちを繋ぐことができそうですが、たった一曲の歌が生きる喜びを繋いでくれた瞬間でした。私達三重組コーラスも仏教讃歌を歌い続けて、お法に出会えた喜びを違えた角度から味わいたいと思います。7月7日には別院音楽祭に参加します。暑い夏、節電に協力して共に乗り越えましょう。合掌 善正寺坊守 拝

平成二十三年七月